

一 民俗文化財一

72 会津の製蠶用具と蠶釜屋 (三ツ和・前田)

会津の製蠶は古くから盛んで、藩政時代には漆樹の栽培奨励と製品の専売制によって生産量が高まり、漆器と共に蠶燭は全国的にその需要がありました。収集された資料は967点に及び、材料の採集用具や運搬用具や蠶燭などその生産工程を知ることができます。また蠶釜屋は高郷村小ヶ峰より移築復元したもので、昭和四十年頃まで共同使用されていたものです。

これらは仕事着・寝具のコレクションと共に(財)会津民俗館で所蔵し、一般公開されています。(国指定重要有形民俗文化財)



製蠶用具

73 会津の仕事着コレクション (三ツ和・前田)

江戸時代以降の仕事着476点が収集されています。上衣はジバン・ハンキリ・カタチガイなどと呼ばれ、サシコの模様によってその変遷と地方差が対比できます。下衣も縞の模様によって対比され、この他まえかけ・かぶりもの・履物も保存されています。(県指定重要有形民俗文化財)



サシコモッコウとボロサシコ

74 会津地方の寝具コレクション (三ツ和・前田)

布団類66点、夜着類11点、炬燵がけ9点、寝箱2点、枕類15点の合計103点が収集されています。布団の綿には苧ぐそ・藁・ぜんまいが使用され、布団皮は麻が主流でしたが後木綿に変わっていきました。枕には引出しのついた木製の箱枕や中身にそば殻・小豆・粍殻を使ったものがみられます。(県指定重要有形民俗文化財)



寝箱

75 西久保彼岸獅子舞 (磐根・西久保)

この獅子舞は昭和十三年に復興され、一時戦争で中断しましたが昭和二十三年より再び行われ、毎年春の彼岸に住民の無事息災と仏の供養を祈念して寺社に奉納されています。舞には「通り」から「弓くぐり」まで十一番があり、笛方・太鼓方の他に弓持・棒持・付添で構成されます。獅子頭の両眼は月輪・日輪を表し、頭には二十四星を戴き、角は降魔の利、牙は悪役を防ぐ架といわれ、着物は白地に鳳凰、袴は黒地に波千鳥の模様を用いています。これらは門外不出で、村内居住の長男のみに継承されており、現在は西久保彼岸獅子保存会によって管理運営されています。

(町指定重要無形民俗文化財)



幕掛り